

Ski Orienteering World Cup Round 2 2025

報告書



目次

概要.....	1
大会概要.....	1
出場選手.....	1
競技結果	2
結果概要.....	2
2/15(土)スプリント	2
2/16(日)ミドル	2
2/17(月)マススタートロング	3
地図	4
2/15(土)スプリント	4
2/16(日)ミドル	5
2/17(月)マススタートロング	7
各選手反省.....	9
荒町美希.....	9
酒井佳子.....	10
佐野響	11
石原拓巳.....	12
支出概算	13
編集後記	14

概要

大会概要

大会名：Ski Orienteering World Cup Round 2 2025

主催：国際オリエンテーリング連盟、Deutsche Ski-Orientierungslauf Gemeinschaft 2016 e.V.（ドイツスキーオリエンテーリング協会）

開催地：ドイツ ルーポルディング

開催日程：2025 年 2 月 13 日～2025 年 2 月 18 日

開催種目：15 日スプリント、16 日ミドル、17 日マスタートロング

大会ウェブサイト：[Live | International Orienteering Federation](#)

参加者：14 か国から 162 名（男子：63 名、女子：42 名、オフィシャル：21 名）

出場選手

女子

荒町 美希（あらまち みき）北海道大学医学部スキー部

酒井 佳子（さかい よしこ）北海道オリエンテーリング協会

佐野 響（さの ひびき）デジタル庁/桐嶺会

男子

石原 拓巳（いしはら たくみ）

競技結果

結果概要

2/15(土)スプリント

女子 直線距離 4.13km

順位	名前	国	タイム
1	Anna Ulvensoen	NOR	14:45
2	Magdalena Olsson	SWE	15:02
3	Frida Sandberg	SWE	15:18
39	佐野 響	JPN	21:25
40	荒町 美希	JPN	24:31
mp	酒井 佳子	JPN	mp

2/16(日)ミドル

女子 直線距離 11.675km

順位	名前	国	タイム
1	Magdalena Olsson	SWE	49:12
2	Frida Sandberg	SWE	50:12
3	Ella Turesson	SWE	50:22
37	酒井 佳子	JPN	1:09:56
38	佐野 響	JPN	1:11:38
39	荒町 美希	JPN	1:22:18

男子 直線距離 11.550km

順位	名前	国	タイム
1	Jorgen Baklid	NOR	41:52
2	Jonatan Stahl	SWE	42:11
3	Isak Lundholm	SWE	42:20
50	石原 拓巳	JPN	56:13

2/17(月)マススタートロング

女子 直線距離 13.850km

順位	名前	国	タイム
1	Magdalena Olsson	SWE	1:02:56
2	Frida Sandberg	SWE	1:04:48
3	Nina Karna	FIN	1:04:55
34	佐野 響	JPN	1:33:11
35	酒井 佳子	JPN	1:38:06
36	荒町 美希	JPN	1:57:12

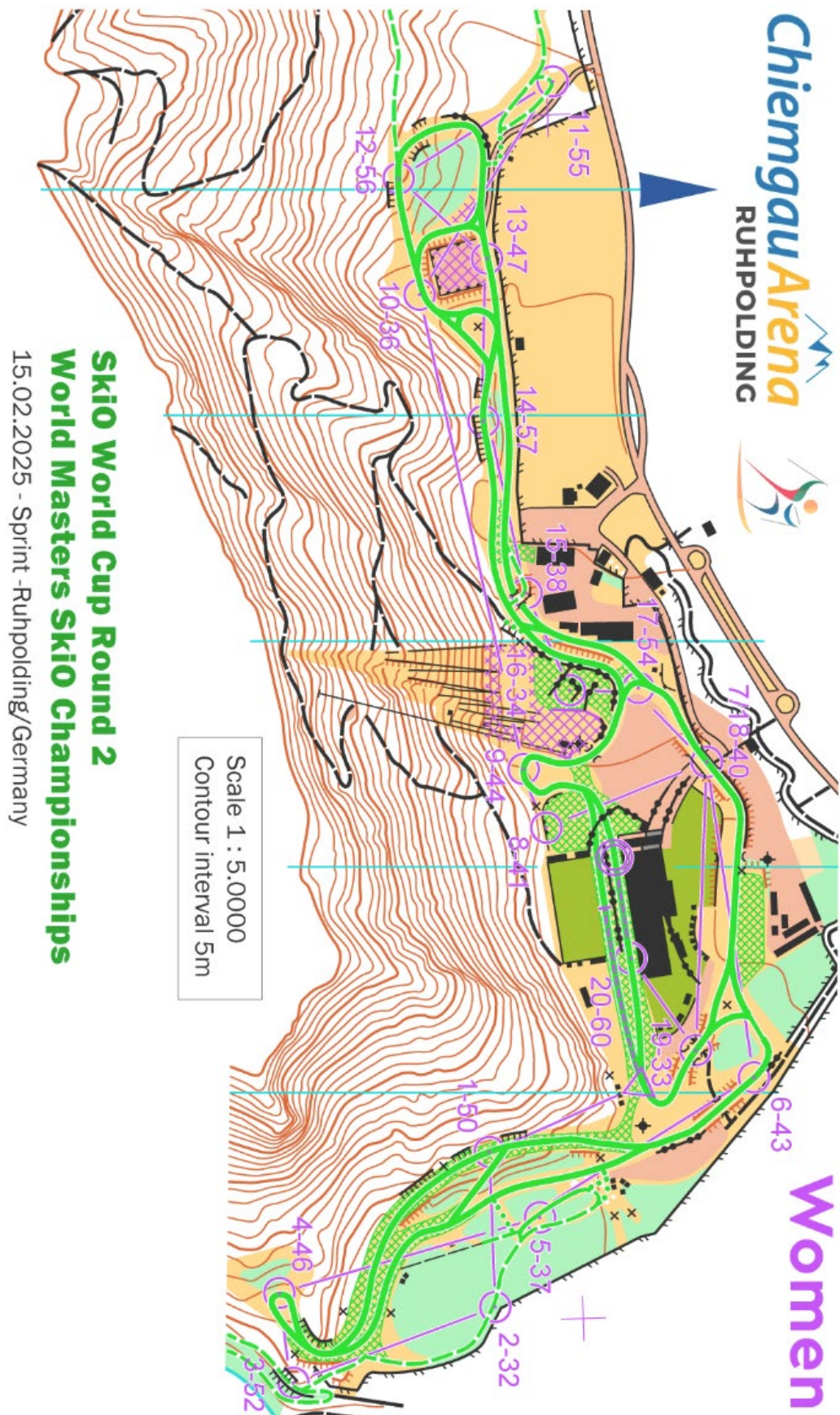
男子 直線距離 18.680km

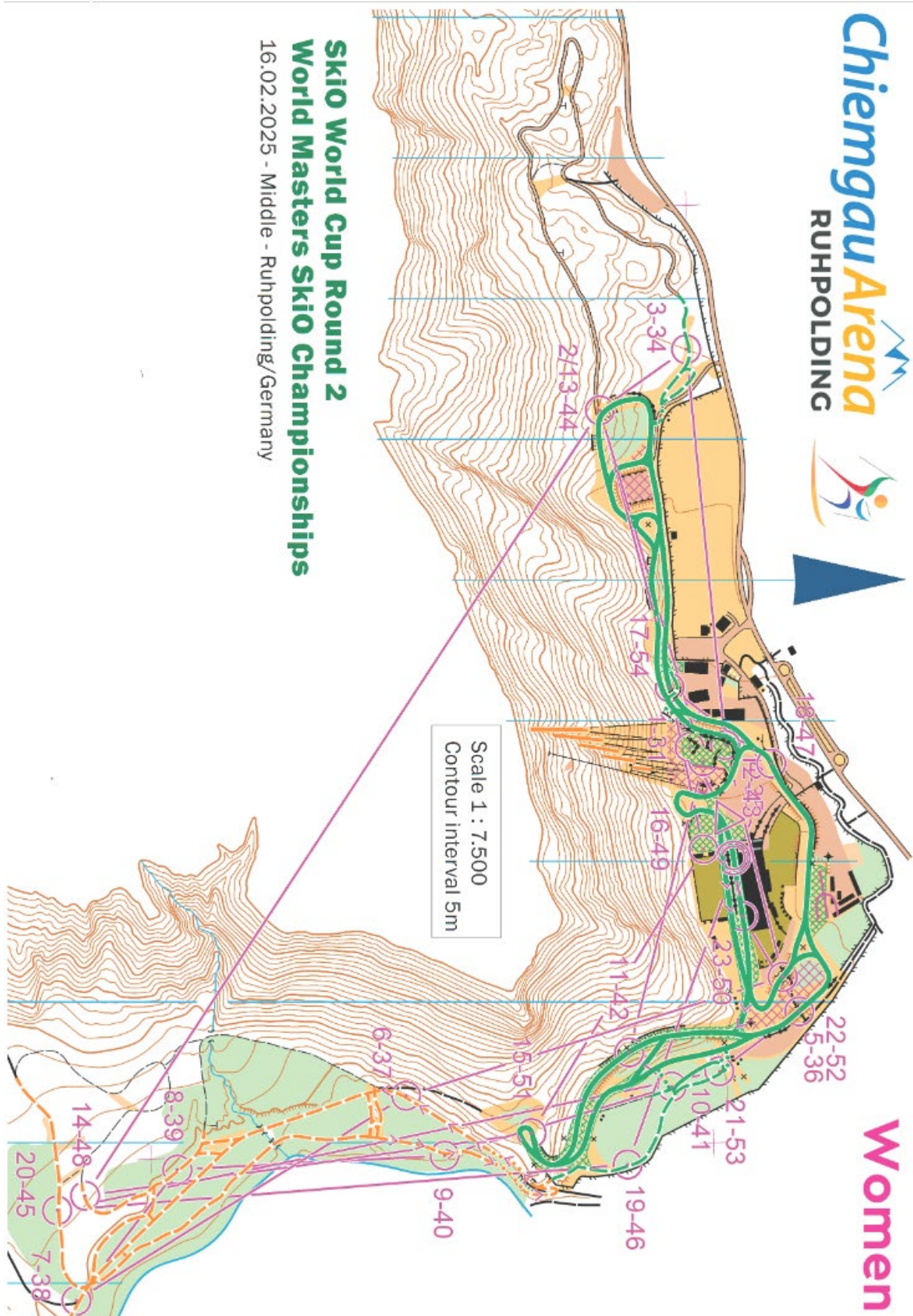
順位	名前	国	タイム
1	Pyry Riissanen	FIN	1:11:07
2	Aapo Viippola	FIN	1:11:10
3	Teodor Mo Hjelseth	NOR	1:12:41
42	石原 拓巳	JPN	1:31:37

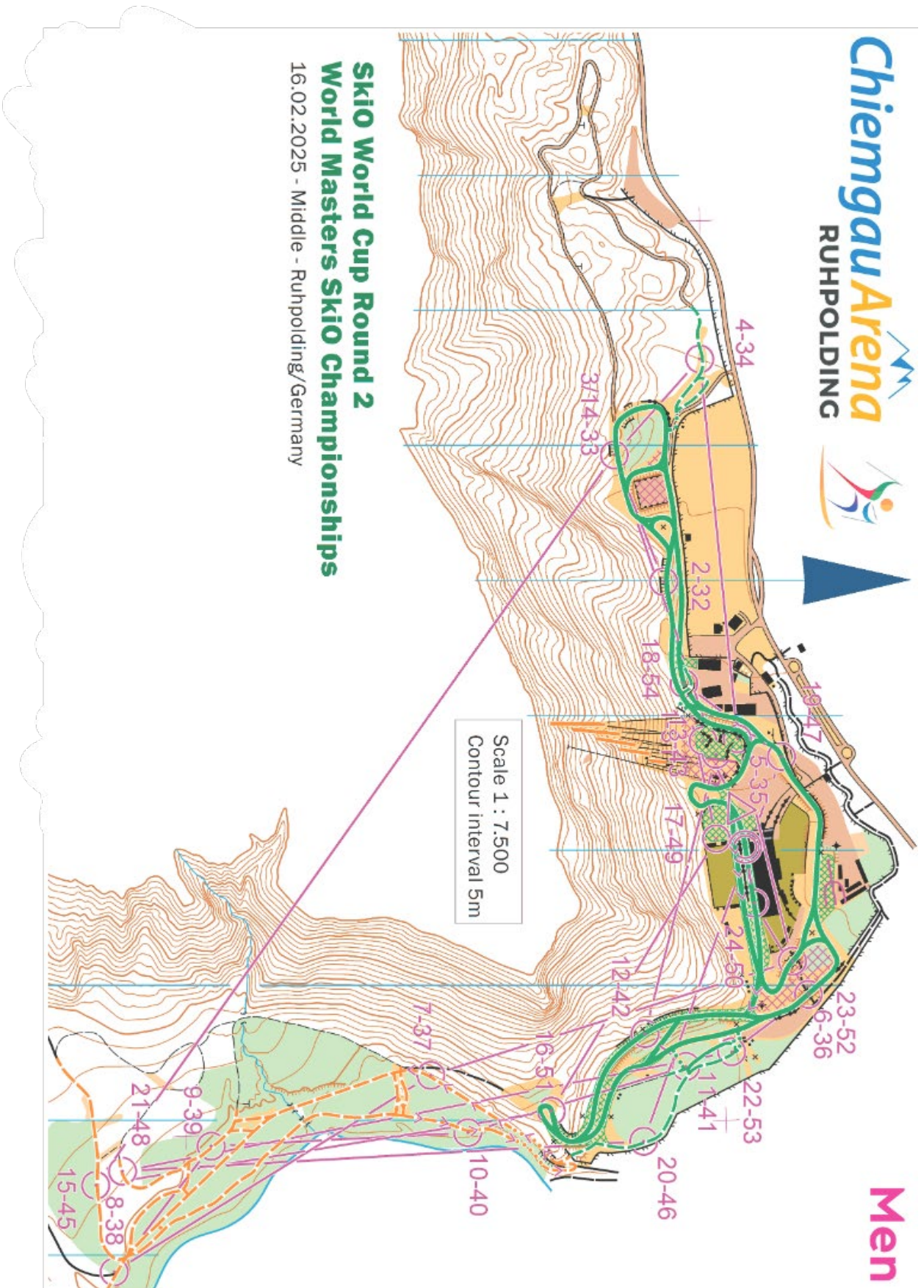
地図

2/15(土)スプリント

女子

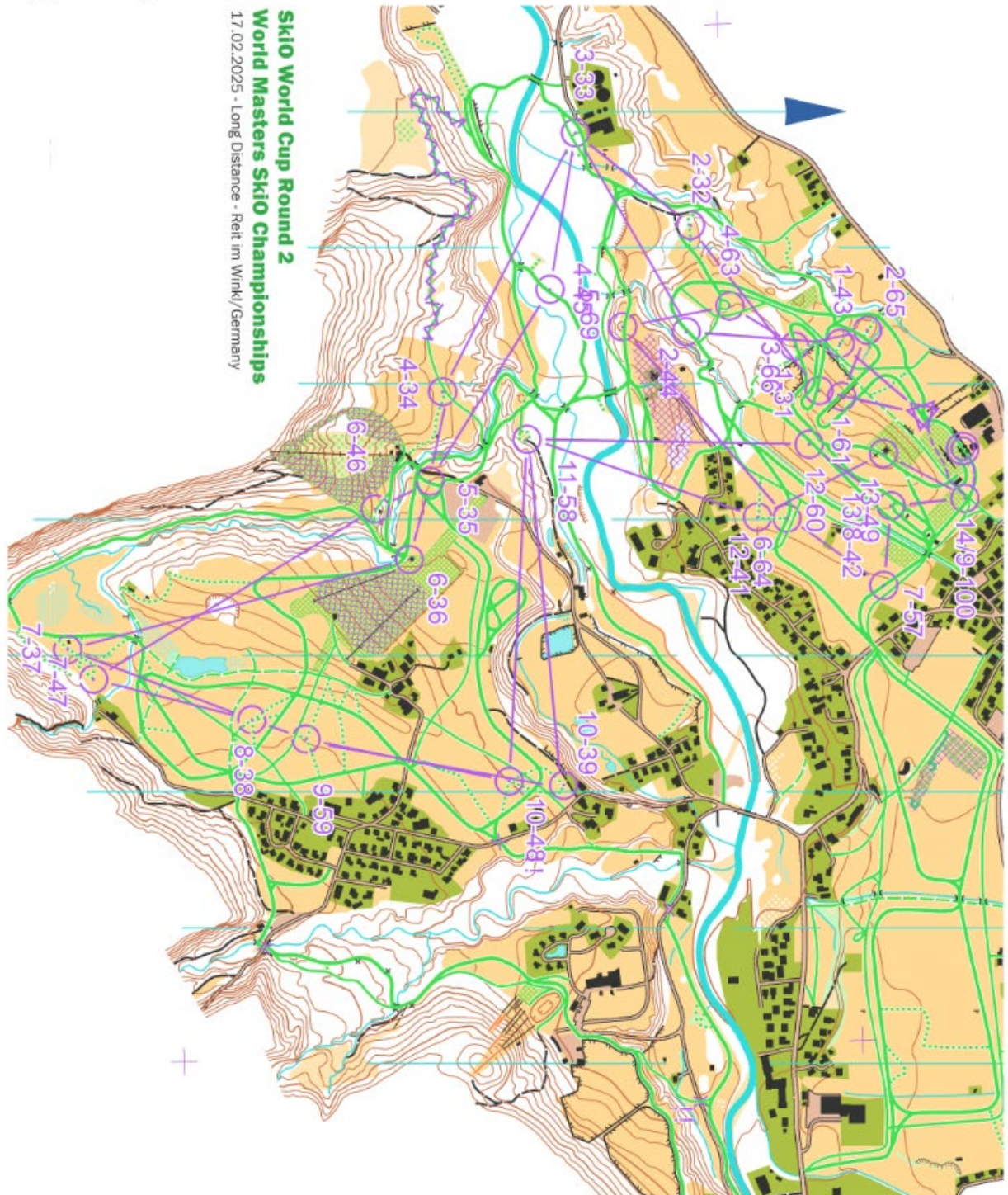


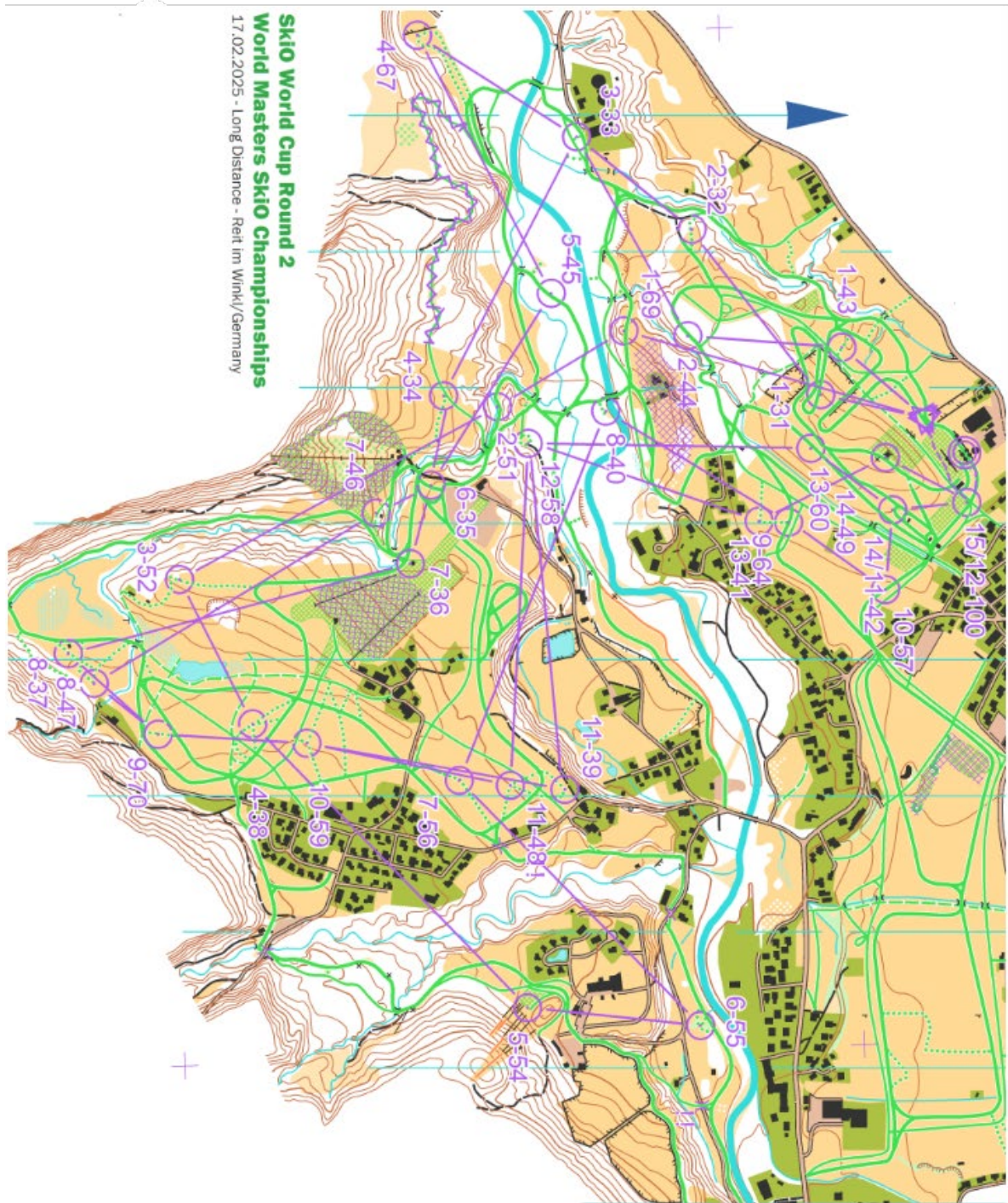




2/17(月)マススタートロング

女子





各選手反省

荒町美希

スプリントとミドルは wide track が多く、現在地ロストすることや道を間違えることはほとんどなかった。ただ、一度地図から目を離し、再び地図に目を戻したときに地図上の自分の位置を見失うことや地図を回転させた後に地図と頭の中で描いていたイメージが一致しなくなってしまい戸惑うことが多かった。それにより、数秒のタイムロスが生まれてしまっていた。また、今回雪が少ないことで、はっきり道とわからないところや 2 本平行に道が並んでいるはずが、very wide track やグラウンドのようにしか見えないところがあった。そこで自信がなくなり止まってしまうこともあった。これは道ばかりに頼りすぎており、その他の地形や方角への意識が弱いことが課題であると思う。多少道の状態が想像と違っていてもそれ以外の情報が一致していれば自信を持てるのではないかなと思う。

ロングでも wide track が多かったが、分岐が多く、またマススタートであったことで焦ってしまった。またほとんどがオープンであったためにショートカットしやすい場所も多く、それが道のようにになっている部分もあり、余計に混乱を招いた。ここで感じた反省としては道の形（直前にカーブして合流する、三叉に分かれると見えて一本は少し手前で分岐しているなど）を細かく把握する必要があるということである。「○本目右」ではなく、自分の頭の中でももう少し詳細に地図を思い描けるように、励んでいきたい。



(Eike Bruns 撮影)

酒井佳子

スプリントとミドルは、現在地ロストになるようなナビゲーションの難しさはなく、ルート選択にバリエーションはあっても、どのルートをとっても勝敗の分け目になるほどの差は出ない。結局、私が他国の選手の相手にならないのは、ひとえにフィジカル面が圧倒的に弱いからである。仮にフィジカル面がもっと強かったと仮定した場合、他の選手らと比較して不足していたのは、現地の状況を踏まえて臨機応変にルート選択する力である。一見、地図上では通行困難に見える土崖が現地では問題なく滑ることができたり（ミドル10→11）、人工降雪機付近では雪質が異なりブレーキがかかってしまったり、地図のみではわからない情報が複数存在していた（通行可能の黒道も、実は砂利むき出し道でしたし！）。上位の選手らはこれらの情報を考慮に入れてルートを選んでいた。

ルスツでは日本チームに地の利がある。立禁エリアのうち、2か所、私が知る限りでは過去に大会が開かれていない場所があるが、そのエリアとて外国選手よりは容易に地図を入手できる。日本に有利な条件を洗い出し、最大限活用していきたい。



(Milan Venhoda 撮影)

佐野響

雪不足のため古いスキーを持ってくるよう案内が事前にあり、フットオリエンテーリング大会になるのではないかと懸念された今大会だったが、主催者の雪入れにより、無事に開催された。

ドイツには、クロスカントリースキーのコースがインターネット上で確認でき、距離と標高が出力されるホームページがあるため、旧図と組み合わせて常設のクロスカントリースキーコースの情報をみることで、トレインの特徴を知り、コースの予想をたてることができた。

ほとんどのレースにおいて、ワイドトラックから成るクロスカントリースキーコースを使用するコースとなっており、今レースではクロスカントリースキーの速さ、速いスキー操作の中で地図を正確に読む能力が必要とされる大会だったと考える。スプリント、ミドルでは単純なネットワークがほとんどであり、いかにスピードを落とさないかという点が重要であった。ミドルの南東エリアは新たに使用されることになったオレンジ線（ショートカット禁止）が植生保護のために使われていた。主催者がコース上に雪を運び入っていた箇所と、雪が残っている箇所があったが、圧雪箇所がわかりにくい場所が多く、オレンジ線で描写されていることもあってスピードが落ちてしまった。マススタートロング競技では、オープンエリアが多く、更に雪が少ないことで圧雪地がわかりにくくなっていた。スタート直後は周りに選手がいるため、瞬時に現在地を把握し、道を上手く利用しながらルートプランをたてる必要があった。ネットワークが細かすぎないからこそその難しさがあったと感じた。

ルスツでの世界選手権大会はクロスカントリースキー主流のコースになるとは考えにくい、まずはフィジカル面の強化を行い、瞬時に現在地を把握して、素早くルートを複数考え、速やかにベストルートを動きながら正しくナビゲーションを行う練習をしたい。



(Milan Venhoda 撮影)

石原拓巳

前戦ノルウェーでの森林地帯と多くのナロートラック主体の地図で一定のパフォーマンスができた一方で、今回のバイアスロンコースや畑、林道といったワイドトラックや特徴あるオープンエリアが主体の地図では地図読みが遅い上に読み間違いが多発してしまった。トラックや等高線以外の要素の地図読みや視覚情報と地図情報の照合が苦手であることがわかった。

他の選手と比較しクロスカントリースキーの速度が遅いことがわかった。トップ比で想像するより大きな差があると実感した。

今後は、オフシーズンから地図読み訓練を積むことと、滑走能力の向上をより強度を高めて行い来シーズンに備える。

エントリー作業や移動、生活面では各選手が効率的に動いたおかげで余裕を持ってレースに臨むことができた。



(Milan Venhoda 撮影)

支出概算

各選手平均として、下記のとおり費用負担が生じた。支払いは全額、選手の自己負担となっている。

エントリー費等 51,000 円

交通費等 345,000 円

宿泊費等 43,000 円

食費等 14,000 円

その他経費 4,000 円

合計 457,000 円

編集後記

今大会に日本チームは、競技歴2年目の若手から数十年のベテランと経験値の幅広い女子3名男子1名の計4名が参加しました。直前まで国内でトレーニング等行い、最善のレースを行うべくドイツの地に降り立ちました。

いまだに世界の壁は高いと感じさせられる結果となりましたが、各選手課題を見つけ、後続する大会に、特に2026年3月に2009年ぶりに自国開催となる世界選手権大会に向けて、トレーニングに励む所存です。今後ともあたたかい応援をいただけますと幸いです。

エントリー手続きや合宿・練習会の開催に御協力いただきました公益社団法人日本オリエンテーリング協会、同スキーオリエンテーリング委員会の皆様、日頃よりお世話になっている日本オリエンテーリング協会オフィシャルパートナーの皆様、海外遠征に御理解・御協力いただきました各選手関係者の皆様、レース観戦を含め日々応援してくださるスキーオリエンテーリング愛好者の皆様、この場を借りて御礼申し上げます。いつも本当にありがとうございます。

佐野響

